

在宅で最期まで暮らそう

あなたは人生最期をどのように迎えたいですか

わたしたちは何らかのかたちで人生の最期を迎えることとなります。その時が、いつ来るかは誰にも分かりません。どのような医療を受けたいか、その時になってから考えるのでは遅い場合があります。事故や急な病気などにより、本人に意識がなく、家族が判断を迫られる場合もあります。

いつかはやってくる最期のときを、最期まで自分らしく生きるために、まだ先のことと考えず、家族や信頼できる人などと話し合い、最期をどのように迎えたいか事前に考えておくことが大切です。

在宅医療・介護連携部会 ☎ (25)1182

最期まで自分らしく暮らすために、どのような選択が自分らしいのか、考えてみましょう。また、家族や信頼できる人と話し合ってみましょう。

1. 人生の最終段階^(※)の医療について、あなたの気持ちはどれに近いですか？

※人生の最終段階とは、回復の見込みがなく、やがて死を迎える段階。

- できるだけ延命治療をしてほしい
- 延命よりも、痛みや苦しみを取り除く医療をしてほしい
- 回復の見込みがなければ延命治療はしないでほしい



2. 人生の最期をどこで過ごしたいですか？

- 自宅
- 老人ホームなどの施設
- 病院
- 分からない
- その他()

3. あなたが意思表示できない場合に、自分の代わりに医師と相談して医療の選択をしてほしい人は誰ですか？

- 配偶者
- 子ども・孫
- その他の親しい人

4. 人生を終えるときに大切にしたいことは何ですか？

人生の最終段階の
医療や介護についての
相談先



- 病院で治療を終えて退院予定の場合
入院先の医療ソーシャルワーカーなどの専門スタッフ
(専門スタッフがない場合は、担当医師や看護師)
- 退院後や寝たきり状態などで通院が困難となったとき
地域包括支援センターや担当ケアマネジャー

令和元年度「在宅医療・介護連携部会」市民公開講座

テーマ 「い(生・逝)きかた」は自分で決める 私たちが行う“人生会議”

講師 終活ジャーナリスト
ライフ・ターミナル・ネットワーク代表 金子 稚子^{わかこ} 氏

とき 3月1日(日) 午後1時30分～3時

ところ 保健福祉センターひだまり2階・ひだまりホール



夫は、2012年10月に他界した流通ジャーナリストの金子哲雄氏。
病気の確定診断とともに死の宣告を受けた夫の闘病生活や死に寄り添う中で、死がタブー視されるがために起こっているさまざまな問題に気付きます。夫と死別後は雑誌・書籍の編集者だった経験を生かして、医療から葬儀・供養・墓、さらには遺族ケアにいたるまで、死の前後に関わるさまざまな事象や取り組み、産業を取材し、多死社会を目前に控える今、起こるだろう問題について警鐘を鳴らし、情報発信や提言を行っています。
厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方に関する検討会」では、構成員として10年ぶりとなったガイドライン改定に関わりました。